（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2191600036		
法人名	株式会社アイランドジー・アイ		
事業所名	アイランドジー・アイ小田グループホーム		
所在地	岐阜県瑞浪市北小田町２－２８５		
自己評価作成日	令和3年1月23日	評価結果市町村受理日	令和3年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191600036-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和3年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1. 脱　廃用性を目指すグループホーム　2. 口腔ケアに取り組むグループホーム　3. 文化教室があるグループホーム

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員は、利用者の生活歴やできる事を把握し、一緒に居間や居室の掃除、炊事、洗濯する等役割を持った生活を過ごせるように支援している。利用者に対し目上の人であることを意識して一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を心掛けている。排泄パターンを把握し、オムツや車椅子の方でも座ることが出来れば昼夜ともトイレでの排泄を支援している。職員間で話し合い布パンツに改善された方もいる。代表者は毎月ミーティング等に参加し、職員に声を掛けて意見を引き出すように心掛けている。管理者は、日頃から職員の意見や課題を掴みだせるように接している。職員間で情報を共有し、同じ対応を心掛けて、笑顔で安心して過ごしていただけるよう取り組んでいる事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会との交流が確保されることを目的として、積極的に地域社会へ出かけるよう目標を設定してはいるが、コロナ禍と入居者の重症化により参加可能者は皆無であった。	代表者は、入職時やミーティングにおいて事業所の理念を職員に説明している。職員は、利用者の生活歴を把握し、調理や掃除、洗濯などの役割を持った生活が送れるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本来ならば、日常的には日課の散歩中、日用品食品の買出し中に交わすあいさつがあり、年中行事としての地域の秋祭、正月初詣、夏祭などがあるが、今年度はコロナ禍と入居者の重症化によりほぼ実施できなかった。	コロナ禍の前は、利用者と散歩や買い物に出掛けた時に近隣の方と挨拶を交わしたり、地域の行事に参加したり交流していた。地域の方に認知症を理解してもらえるように自治会の回覧板にプリントを入れるなど情報を発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の回覧板にグループホーム便りを回覧してもらうようにして頂いている。関心を持って頂くことから始めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は6回実施予定である。入居者の重症化を理解していただき、散歩中の交流の理解、避難の際の応援をお願いしている。	コロナ禍のため書面にて開催し、事業所の状況や職員体制、事故などを報告している。事業所として地域に認知されているが、定期的に会議が開催されていなかった。	会議を定期的に開催し、参加者の意見からサービスの向上に活かせるように取り組んで欲しい。また、多くの情報を地域に発信できるような工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会長は会社を代表して市の介護保険三委員会の委員を歴任している。非常に良好で密な関係を構築している。	管理者は、書類を提出に行った時や市主催の会議に出席した時に市の担当者と情報交換している。利用者の更新認定の調査に市の職員が訪問した時に事業所を案内し情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束回避の努力を常に心がけている。知識、症例などの研鑽を積むべく身体拘束・虐待に対する勉強会は法令に定める回数以上に実施するよう努めている。	職員が交代で講師となり、テーマを決めて定期的に勉強会を行っている。言葉の掛け方や対応など気付かずに拘束や虐待になることも考えられるため意識できるように話し合って取り組んでいる。職員は同じ対応が出来るように情報を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	存在しないよう常時意識している。採用時研修及び月次の勉強会でも取り上げている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者やご家族に成年後見制度の紹介が可能な程度の知識は持っているし、必要時には支援できる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情受付は窓口を設けているし、意見を頂けば検討する姿勢はある。情報公表の際の家族アンケートを分析し、「伝えたつもり」が「伝わりきっていない」相互の想いの違いを学習反省し、ご家族への伝え方にも活かすようにしている。	コロナ禍前は、家族の訪問が多く、職員から積極的に話し掛け意見や要望を聞いている。コロナ禍で玄関にてガラス越しの面会となったため、メッセージに写真を添えて毎月送っている。なるべく歩かせて欲しいと要望を受け、職員間で話し合い対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のリーダー会議、全体会議、勉強会があり、職員個々の自由な意見が述べられている。	代表者はミーティングやリーダー会議等に出席し、職員に声を掛けて意見を聞いている。管理者は、日頃から職員の意見を聞くように心掛けている。空気清浄機の増設、食事の提供体制など職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実践できている。身近な運営協力者として階下のナーシングデイ管理者に密な助言指導を依頼している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議、リーダー会議が職員としてのトレーニングの場である。また主任以上は毎月管理者会議に出席し、管理職としての教育を学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当社グループ事業所の管理職会議での交流。階下デイ職員との昼食時の交流などを推奨している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入段階は全職員が特別に注意して必要な情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入段階は特別に注意して必要な情報収集・交換に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GH入所審査段階においてGHの趣旨に合致しているかを検討している。入居後は全職員で集中して情報収集と接遇の検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHが「生活の住まい」である以上当然のこととしてできている。職員はGHは「施設」ではなく「家」であることの理解は徹底している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	GHであるから当然のことであるが、家族の本音を知った上で家族を巻き込むことの方が大切である。お陰で家族訪問頻度はピカイチである。今年度はコロナ禍で訪問の制限をかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への「ドライブ」や「友人の訪問」を歓迎している。今年度はコロナ禍で訪問の制限をかけている。	日々の会話の中や家族や友人が訪れた時に馴染みの人や場を聞いている。コロナ禍前は、昔よく出掛けていた店や神社、桜、紅葉など花見の名所に職員と一緒に出掛けていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	最も力を入れている一つである。夫々に「生活役割」を持っていただき、入居者が互いに同居人，家族と思っていただけることを望んでいる。入居者の重症化に伴い難しくなってきたが、職員が介在したりして上手くやっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	求められれば内容によっては相談にものる姿勢はある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当然のことだしできている。迷ったら、職員同士で方針がずれたら、「利用者ファースト」で考える習慣を指導している。	利用者との会話から思いや意向を聞いている。利用者の様子が普段と違うと感じた時は職員から声を掛けて、ゆっくりと思いを聞くこともある。得た情報を職員全員で共有し同じ対応が出来るように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	当然のことだしできている。「その人らしい部屋づくり」から始まり、「幼少期、全盛期、晩年」を知ることは全職員の強く願う処である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	当然のことだしできている。職員には「プラス発想でみる習慣」が根付いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	当然のことだしできている。計画的にカンファを行っている。	訪問時や電話にて家族の要望を聞き、計画に反映している。利用者の担当職員が定期的にモニタリングを行い、カンファレンスにて他の職員の意見も取り入れている。状態が変化した時は医師の意見を取り入れて現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当然のことだしできている。ただし、入居者の重症化により出来ることの発見、意思の汲み取りなどには、細かい気配りが必要なものばかりとなってきている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別対応には職員配置上限界もあるが、そもそも入居者の重症化により非常に困難になりつつある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者に馴染みの地域社会との関りの持続は職員の願いではある。入居者が活発だった当時は頻繁に行った。近年重症化により困難になっているがチャンスがくれば再開したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当然のことだし十分できている。元々のかかりつけ医、認知症専門医ならびに訪問看護の訪問診療を取り入れている。家族が付添困難な受診にも職員にて対応している。	かかりつけ医の受診は家族が同行している。認知症に関しては協力医に往診してもらっている。かかりつけ医を受診する時は状態を伝え、結果を確認している。救急や家族が困難な時は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当然のことだしできている。提携訪看2回／月オンコール体制と密である。階下のデイ看護職の日々の協力もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前に入院応需の各病院との特別な提携などはしていないが、情報の密なやり取りなどなどは、お互い通常の連携の中で機能出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後は、重症化の場合、終末期の場合は家族の希望も考慮するが、GH本来の「中間施設」の意義も軽視しないようにしてゆく。	契約時に事業所の方針を説明している。状態が変化した場合は、家族に相談しながら意向に添えるように取り組んでいる。今年度は看取りを行ったが、家族との対話を重要視し、次の受け入れ先について意向に添えるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年の定期訓練はしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期訓練はしている。地域との協力体制の約束事などはないが、訓練への近隣住人の参加もある。今年度はコロナ禍にて住民参加は無い。	コロナ禍のため消防署に相談して、紙面上の訓練や避難経路の確認、通報訓練を行っている。食糧や水、ガスコンロなど備蓄している。消防訓練実施届や実施記録を確認できなかった。	地域で発生する災害を想定し、夜間想定を含め年2回の訓練を行うように取り組んで欲しい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	重要事項として認識している。職員の「接遇」として会社が重きをおいて職員指導している部分である。	管理者は、馴れ馴れしい言葉遣いとならないように職員に伝えている。職員は、利用者一人ひとりに合わせた声掛けや対応を心掛けている。トイレへの誘導は自尊心を傷付けないように気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必要な方には意思確認をするようにしている。認知症介護での基本は「意思決定は出来るだけ本人に、職員はきっかけ作りが役割」と認識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課はこちらで決めているが、職員の役目は「言葉を掛ける際は促すように」であり、「指示を与える」のではないことはこだわっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	そのようにこだわっているが、「本人と一緒に考え選ぶ」が基本と実践している。ただ、入居者の重症化により対象者が減ってはきた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる人には調理の過程の部分部分での役割参加をしていただいている。個々の介護計画表にその方の役割参加が記述され、職員間で共有実践している。かなりこだわっていた部分であるが、入居者の重症化により難しくなりつつある。	利用者は、盛付や下膳、食器洗いなど出来ることを手伝っている。箸や茶碗など使い慣れた食器を持って来ている。職員は、利用者と一緒に併設事業所の流しそうめんや鍋などに参加したり、好きな食べ物をデリバリーで頼んだりして楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	完全自社調理であり、こだわりの部分である。栄養、味、形状全てに気を使っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	当然のことだしできている。毎食後の職員付き添いでの口腔ケア。月一回の歯科医師による利用者健診をしている。ただ、今年度はコロナ禍で歯科診療は中断している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	当然のことだしできている。	排泄パターンを把握し、昼夜ともトイレに誘導している。重度化しても座ることが出来ればトイレでの排泄を支援している。利用者のしぐさや動作を把握して、職員間で話し合って布パンツに改善された方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	当然のことだしできている。排便コントロールは重要であり、排便記録を観察し医師の指示を仰ぎ常に良い状態に保っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	こちらの日課として頻度時間は決めさせてもらっている。目下無理強いすることもなく出来てはいる。	湯温や順番、時間など利用者の要望に合わせている。身体状況により、併設事業所の機械浴で入浴している方もいる。ゆず湯やしょうぶ湯、見守りながら一人で入浴するなど気持ち良く入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の本来の生活習慣を意識し、現実の可能性と比較し可能なことは実践している。体調の観察もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当然のことだしできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、趣味、関心事などを網羅している。興味のありそうなことで可能なことを働きかけてはいる。ただし入居者の重症化により元気な方への関りが十分取れなくなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	割と努力してきた方だと思う。ただし入居者の重症化により元気な方への関りが不十分となってきた。また今年度はコロナ禍で外出機会は無い。	コロナ禍前は、喫茶店や認知症カフェに出掛けている。併設の職員の協力も得て、車椅子の方も一緒にドライブに出掛けていた。利用者の希望を家族に伝え、墓参りや旅行に家族と一緒に出掛ける方もある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「食品、日用品の買物付き添い」を社会交流と位置づけ重きをおいてきたが、入居者の重症化により困難となった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	それが必要な方にはそのようにさせるが、今は日常的にそれを求める入居者は居ない。家族の定期的来苑は非常に多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感、飾り、動線、季節感など、工夫・努力はしているつもりである。	毎朝、リビングや廊下を利用者と一緒にモップ掛けしている。家庭的な雰囲気を損ねないように飾り過ぎないことを心掛けている。空気清浄機を設置し、職員は換気や温度、湿度に配慮している。利用者が落ち着けるようにソファや椅子の配置を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースしかないので思い思いとはいかないだろうが、これで良いと感じている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ある程度工夫はしているし、家族への働き掛けも十分してはいる。	使い慣れた机や椅子、タンスなどを持ち込んでいる。孫の写真や手紙、家族が持って来たアートフラワーを飾っている。遺影を飾っている方もある。利用者と一緒に掃除や片付けをして居心地く過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自分で判断できるよう、表札、掲示などにの工夫に心掛けてきた。「環境整備にも自分で判断できる工夫」こそGHらしいこととこだわっている。		